

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立湖南中学校）

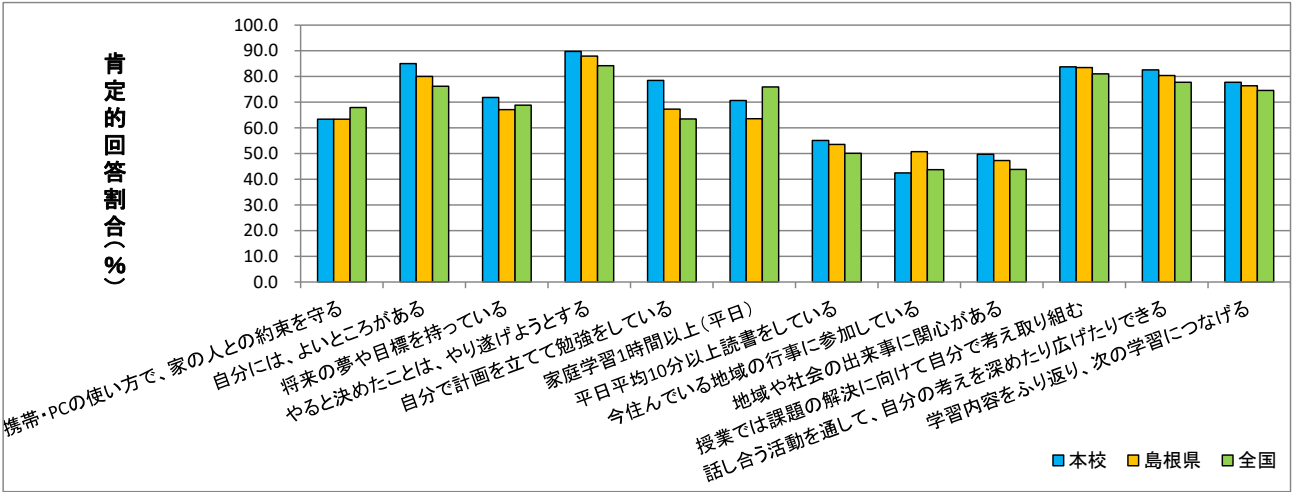
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○：成果、●：課題)	対 策
国語	○言語事項(特に漢字の読み)に関する問題の正答率は全国平均より高い。 ●文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題の正答率が低く、全国平均と比べても半分ほどであるため、筆者の考えを捉え、自分の考えを表現する力を高める。	・今後も授業や家庭学習で、漢字の学習や語句の意味調べを継続的に行う。 ・授業や予習で、小説や論説、説明文、随筆など様々なジャンルの文章を読み、作者や筆者のものの見方や考え方を要約したり、それに対する自分の考えを書いたりして、読解力と表現力を高める。
数学	○選択式や短答式問題、図形に関する記述式問題の正答率は全国並みである。 ○グラフを読み取ったり、計算で求める問題の正答率が高い。 ●数量の関係や言葉を理解する力を高める。 ●数学的に解釈したり、表現・説明する力を高める。	・授業中や家庭学習に既習事項の復習を取り入れ、基礎・基本の定着と新たな学習内容に関連を持たせる工夫をする。 ・グループ学習などの場面を設定して、自分の言葉で筋道を立てて伝える力を育てるとともに、多様な考え方を理解する力を高める。

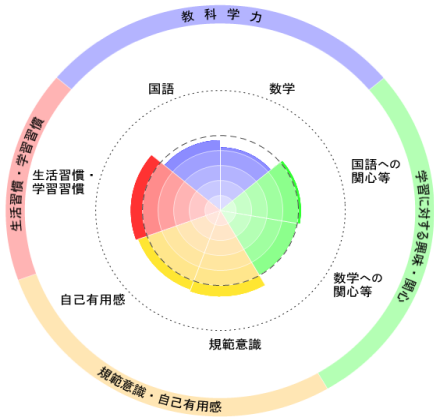
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○：成果、●：課題)	対 策
○自分でやると決めたことに継続的に取り組める生徒が多い。 ○自分自身のことを肯定的にとらえ生活している生徒の割合が高い。 ○グループ等での話し合う活動は、自分にとって役立つと感じている生徒が多い。 ●家庭学習1時間以上(平日)行っている生徒の割合が少なく、家庭学習の習慣化に課題が見られる。 ●地域や社会の出来事に関心がある生徒の割合が低い。	・将来の夢や目標を持っている生徒の割合を高めるため、キャリア教育と結びつけながら内的動機づけを図ることにより家庭学習の習慣化を行う。 ・自ら解決したくなるような課題の設定など、「協同学習」を中心とした授業の工夫。 ・ふるさと学習を継続し、地域を知り地域の良さに気づく場とする。また、学んだことを発信する機会を設ける。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・家庭学習の充実。
 - ①家庭学習が行いやすくなるような工夫(学校での学びと家庭での学びとの結びつけ)
 - ②湖南中校区における小学校との連携(小中一貫教育の推進)
- ・「協同学習」の継続
- ③自主的に課題に取り組むための工夫

【受検者数】 167 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。